

機器用スイッチ—第 1 部：一般要求事項

正 誤 票

区分	位置	誤	正
本体	16.3.2	e) 表 12 に示した…。	e) 表 13 に示した…。
	図 9a	図 9a 白熱電球負荷の交流電流の容量負荷試験に用いる回路	図 9a 交流回路用容量性負荷試験及び擬似白熱電球負荷試験用回路
附属書	附属書 M 表 M.1	備考 1. 組み合わせる固体絶縁によって空間距離の試験電圧が決まる。表 M.1 のインパルス試験電圧は、固体絶縁が設計によって定格インパルス電圧を増加させる。 2. 試験は、2 000 m (80 kPa) 及び 20 °C の定格インパルス電圧に関連する試験電圧で、標高 2 000 m (80 kPa) 及び 20 °C に一致する値に調節した圧力にする。	備考 1. 空間距離の試験を行うとき、組み合わせる固体絶縁にも試験電圧を加える。表 M.1 のインパルス試験電圧は、定格インパルス電圧よりも増加しているため、固体絶縁はそれに応じて設計することになる。この結果として、固体絶縁の耐インパルス容量を増加しなくてはならない。 2. 試験は、2 000 m (80 kPa) の標高に一致した値に調整した気圧及び 20 °C の条件において、定格インパルス電圧に一致した試験電圧で行ってもよい。この場合、固体絶縁は海拔での試験と同じ耐力要求にはならない。
	附属書 R R.4	— 接地導通は 10 A 以上の試験電流で 10.4 に従って行われる。	— 接地導通は 10 A 以上の試験電流で 10.4 に従って行う。この試験は、測定に必要な期間行う。
	附属書 S	附属書 S (規定) 抜取試験	附属書 S (参考) 抜取試験
	附属書 S S.1	附属書 S は、…を確認する手段のガイドである。	附属書 S は、…を確認する手段のガイドである。この附属書に規定されている以外の試験は、同じ目的を満たすことに限定する場合、用いてもよい。
	附属書 S S.2	この附属書に記載された試験は、製品検査計画の一部として考えてもよい。製品検査はスイッチの製造中に適用される。 スイッチが関連試験に合格しない場合には、修正措置を取るべきである。 用いる品質管理システムは…の要素を含んだ方がよい。	この附属書に記載された試験は、製品検査の試験計画の一部として考えてもよい。製品検査はスイッチの製造中に適用する。 スイッチが関連する試験に合格しなかった場合は、修正措置を取らなければならない。 用いる品質管理システムは…の要素を含めなければならない。 品質管理システムの要求事項は、その他の方法によってもよい。
	附属書 S S.3.2	手順書に記載された期間内に次の順序で試験を行った方がよい。 試験は、…。附属書 T は、…をグループ化するための一つの例を示している。	手順書に記載された期間内に次の順序で試験を行わなければならない。 試験は、…。附属書 T は、…をグループ化するための一つの例を示している。その他のグループ化システムもまた、この目的のために使用してもよい。